



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役社長 山本 良一
 お問合せ先 経営戦略統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2014年11月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	11月度	9～11月度累計
百貨店事業	▲ 0.2	▲ 1.0
パルコ事業	2.6	2.2
卸売事業	▲ 6.3	▲ 7.5
クレジット事業	▲ 3.0	4.9
その他事業	3.4	3.6
連結合計	▲ 0.0	▲ 0.5

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・11月度の百貨店事業の売上高は、紳士服がスーツ、ジャケットなどを中心に好調に推移したほか、ラグジュアリーブランドが牽引した婦人服も売上を伸ばし、訪日外国人売上も引き続き好調に推移したものの、家具・敷物が苦戦したほか、前年の宝飾品好調の反動減などにより、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲0.1%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同▲0.2%減となった。

2) パルコ事業

- ・気温が例年に比べ高めに推移したことから冬物重衣料が苦戦したものの、11月13日に新館を開業した福岡パルコが、本館・新館ともに予算を達成するなど好調なスタートを切ったことに加え、新規ショップが増加した飲食が好調に推移し、全体の売上を牽引したほか、月末に開催したカード顧客優待企画による押し上げ効果も寄与し、パルコ事業全体では対前年2.6%増となった。

3) その他

- ・卸売事業の大丸興業は、電子デバイスが対前年プラスとなったものの、食品・リテール事業が苦戦し、対前年▲6.3%減となった。
- ・クレジット事業のJFRカードは、外部加盟店手数料収入が増加したものの、グループ内取扱手数料率の見直しにより、対前年▲3.0%減となった。
- ・その他事業は、人材派遣業のディンプルが好調であったことや、今期よりフォーレストが加わったことにより、対前年3.4%増となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2014年11月度 百貨店事業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	11月度		9～11月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	3.9	▲6.2	1.2	▲7.8
大丸 梅田店	2.2	▲16.1	2.1	▲16.1
大丸 東京店	3.1	▲7.5	2.4	▲7.5
大丸 浦和パルコ店	▲4.7	▲3.5	▲7.0	▲4.3
大丸 京都店	3.4	▲5.3	2.4	▲6.7
大丸 山科店	▲8.7	▲8.7	▲6.9	▲7.1
大丸 神戸店	▲0.1	▲8.4	0.1	▲9.5
大丸 須磨店	▲11.6	▲16.5	▲6.8	▲15.0
大丸 芦屋店	▲6.4	▲10.5	▲5.1	▲9.8
大丸 札幌店	6.3	▲11.5	1.9	▲13.4
松坂屋 名古屋店	1.2	▲3.1	0.1	▲5.2
松坂屋 上野店	▲21.0	▲34.5	▲18.3	▲29.9
松坂屋 静岡店	▲3.5	▲3.8	▲4.1	▲1.5
松坂屋 高槻店	▲7.0	▲22.2	▲5.1	▲20.4
松坂屋 豊田店	▲6.4	▲1.9	▲3.7	▲3.9
大丸松坂屋百貨店合計	▲0.1	▲10.9	▲0.7	▲11.2
博多大丸	▲0.1	0.7	▲2.3	▲0.7
下関大丸	▲2.9	▲0.3	▲2.4	▲2.7
高知大丸	▲1.2	7.0	▲5.1	0.5
百貨店事業合計	▲0.2	▲9.8	▲1.0	▲10.2

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	11月度	9～11月度累計
紳士服・洋品	2.0	3.0
婦人服・洋品	1.0	0.5
子供服・洋品	6.4	0.7
その他の衣料品	▲13.3	▲12.3
衣料品計	0.8	0.4
身 回 品	▲5.8	▲5.3
化粧品	11.0	8.4
美術・宝飾・貴金属	▲3.2	▲1.6
その他雑貨	27.9	29.7
雑 貨 計	5.2	5.2
家 具	▲19.6	▲14.2
家 電	1.2	3.9
その他の家庭用品	▲2.0	▲3.9
家庭用品計	▲6.2	▲6.0
生 鮮	▲0.6	▲1.8
菓 子	▲0.0	▲2.8
惣 菜	0.7	2.6
その他食料品	▲2.8	▲5.0
食料品計	▲0.7	▲1.6
食堂・喫茶	▲2.0	▲4.7
サービス	▲7.5	▲16.6
そ の 他	▲1.2	▲4.4
合 計	▲0.1	▲0.7

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが3か月連続で前年を上回ったほか、衣料品ではスカート、ワンピースなどが好調に推移した。紳士服・洋品は、ジャケット、シャツなどがよく動いた。身回品は、かばん・旅行用品が好調を持続したものの、婦人ブーツや前年に売上を大きく伸ばしたアクセサリーなどが苦戦した。雑貨は、本年10月度から免税対象品目に加わった化粧品が2桁増となった。食品は、上野店南館建替え工事による売場面積減の影響などによりマイナスとなった。